

自宅に温泉 高血圧症の割合低く

東京都市大・早坂教授に依頼 熱海市の調査で指摘

自宅に温泉が引かれていると高血圧症の割合が低い――。熱海市が東京都市大人間科学部の早坂信哉教授（温泉医学）に依頼した調査で、そんな関連の可能性が分かり、先月長野県で開かれた、日本温泉気候物理医学会で発表された。

調査は、旅館、保養所などととも一般家庭も対象に温泉を供給する事業を営む同市が、温泉と健康の関係

を調べること新たな健康づくり施策や熱海温泉の効能のPRにながればと、2013年度から行われている。

同市の温泉療法専門医で共同研究者の内田実さんによると、12年6～9月に特定健診を受けた市民3233人

（男1190人、女2043人）を対象に、健診時に答えた飲んで

いる薬の種類や、温泉の供給状況などを調査した。このうち、自宅

に温泉ありが654人、なしが2579人

だった。

その結果、血圧を下げる降圧剤服用者は温

泉ありが30・7%で、なしの37・0%より低率だった。あり26%・なし25%だった高脂血症薬や、いずれも7%だった糖尿病薬に比べると、統計学的に意味のある差だという。

調査は継続中で、最終的な成果は市制80周年記念で17年に刊行する「熱海温泉誌」に掲載する予定。同誌作成

実行委員会代表でもある内田医師は「温泉と健康の関連が実証されれば、熱海温泉の良さを市民が改めて知る機会になり、観光PRや

転入者の増加にもつながると思う」と話している。

【梁川淑広】